



品川区精神保健福祉家族会

かもめ会だより



7月6日はおしゃべり会開催 & 会館まつりに参加します

7月6日（土）はかもめ会のイベントが盛りだくさんです。当日のスケジュールをお知らせします。

1. 合唱の練習・リハーサル 10:30~11:20

旗の台文化センター（品川区旗の台5-19-5）レクホールに集合、合唱のリハーサルをします。

2. レストランに移動します。11:20~11:30

旗の台文化センターを出発。レストランまで3分ほど歩きます。

3. 「レストランMAGOT 108」でおしゃべり会を行います。11:30~12:30

4. 品川区立心身障害者福祉会館に移動します。徒歩1分です。12:30~12:40

5. 「みんなで歌おうかもめ会」として、会場のみなさんと合唱をします。13:15~13:45

詳しくは下記をご参照ください。



7月6日（土）おしゃべり会のご案内

会館まつりで「みんなで歌おうかもめ会」の合唱披露をする前に、旗の台で今年度初となるかもめ会おしゃべり会を行います。当日は昼食を用意いたします。会場は、旗の台駅南口から会館へ向かう途中の右手にある「レストランMAGOT 108」です。予約の都合で事前参加申込が必要です。※食事後、品川区立心身障害者福祉会館に移動します

日時 7月6日（土）11:30~12:30

会場 レストランMAGOT〈マゴット〉108（旗の台5-3-4）03-3781-3265

今回のランチメニューはマゴット一番人気のハンバーグランチです

東急大井町線・池上線 旗の台駅 南口下車徒歩2分

申込 090-6190-6186 / shoda3@east.cts.ne.jp 庄田まで 会員は無料



「みんなで歌おうかもめ会」として会館まつりで合唱をします



かもめ会は当日開催中の会館まつりに合唱で参加します。4階訓練室で13:15頃から、「みんなで歌おうかもめ会」として合唱を披露します。曲目は「めだかの学校」「おぼろ月夜」「ふるさと」の3曲です。指揮は役員の高橋和子さん、伴奏はかもめ第三工房の勝俣伸吾さんです。当日歌詞と楽譜のコピーを会場でお配りし、会場の皆さんと共に歌いたと思います。飛び入り参加、大歓迎です。会館まつりのチラシを同封させていただきます。



8月3日（土）かもめ会講演会を行います

あの、森川すいめい先生がついに品川に！ オープンダイアログとは何なのか？ どんなものか？ どうやるのか？ 薬はどう使うのか？ だれがするのか？ 何を話すのか？ 治療者は誰なのか？ 当事者は何をするのか？ 家族はどう参加するのか？ 今の日本の精神医療と何が違うのか？ この機会にぜひ詳しいお話を訊いてみましょう。参加は無料ですが、会場の定員の関係で予約が必要です。

題名 オープンダイアログを体験しよう(仮題)

講師 森川すいめい(精神科医、鍼灸師)

日時 2024年8月3日(土) 13:30頃~16:00

会場 荏原第五地域区民集会所 第一集会室(品川区二葉1-1-2)

予約 090-6190-6186 / shoda3@east.cts.ne.jp 庄田まで



6月25日（火）かもめ会役員会のお知らせ

日時 6月25日(月) 13:30~15:30

会場 荏原第五地域区民集会所 第二集会室(品川区二葉1-1-2)

内容 2024年度の具体的スケジュール、その他会の運営について役員はお集まりください。



5月8日（水）精神保健家族勉強会開催報告

5月8日(水)の13:30から、荏原保健センター主催の精神保健家族勉強会が開催されました。今回は「社会資源について」というテーマで、荏原保健センターの飯塚心理士より、品川区の社会資源を中心にした勉強会でした。最新の社会資源の動向などについて話があり、質問が活発に出ていました。(植村保健師さん)



7月10日（水）精神保健家族勉強会が開催されます

次回家族勉強会(荏原保健センター主催)は7月10日(水)で、テーマは「精神疾患の基礎知識」です。時間は13:30~15:30です。参加希望の方は、荏原保健センター(西五反田6-6-6) ☎03-5487-1311までお電話でお申し込みください。(予約が必要です)(植村保健師さん)



かもめ会 2024 年度総会が開催されました

5月8日(水)の精神保健家族勉強会終了後、同会場においてかもめ会総会を行いました。正会員60名のうち16名が出席、28名から委任状が提出され、総会は成立しました。「2023年度かもめ会活動報告・会計報告」「2024年度活動計画・予算案」が承認され、その他役員の変更、規約の改定等が行われました。規約の改定等の詳細については、次号かもめ会だよりでご報告します。



超短時間勤務についてのおしゃべりセミナー開催報告

5月15日(水)の10時から、品川区立中小企業センター2階大講習室において、東京大学先端科学技術研究センター社会包摂システム分野教授の近藤武夫先生をお迎えし「おしゃべりセミナー」を開催いたしましたのでご報告いたします。内容は「超短時間雇用モデルと地域でのインクルーシブな働き方」で、品川区で始まったばかりの「超短時間雇用促進窓口みつけ」のご担当者さんもお越しくださいました。参加者は会員・非会員合わせて45名で、盛況のうちに終了いたしました。



かもめ会主催おしゃべりセミナー報告

今日、精神障害者をはじめ、様々な事情により、通常勤務を続けることが難しい人々が一定数います。その様な方々にとって、今回のお話は当事者を抱える家族にとって、大変参考になったことと思います。

今回の講義の目的は、障害者雇用の機会を得にくい人々を、地域、企業や大学が連携してインクルーシブ(すべてを包括する)に働く「超短時間雇用モデル」の取り組みにおける障害のある人々の労働事例と社会的課題を概観することでした。

1. 超短時間雇用で働く事例

- (1)一般企業や商店街にある店等に於て一週数時間程度から働く
- (2)障害者雇用率の充足のために雇用されるのではなく、「特定の業務を果たすことができ、職場を助けてくれる人材」としての雇用
- (3)業務の対価である時給は一般の労働者と同じ(最低賃金以上の妥当な賃金)

2. 背景にある考え方

既存の障害者雇用率は週30時間以上、障害者手帳を持つ個人を雇用すると1カウントと算定されています。この為、雇用率達成を主眼とした企業での日本型雇用には労働時間の長さや職務の不明瞭さの壁が課題となっています。

- ①働きたいが長時間働けない障害者との機会格差
就労移行支援事業に存在する「週30時間の証明」
- ②賃金の一般就労との格差
B型事業所－平均工賃15,603円/月、A型事業所－74,085円/月
(厚生労働省平成29年の実績)
年収122万円以下の相対的貧困者は81.6%
(きょうされん「障害のある人の地域生活実態調査」2016年)
- ③メインストリーム(主流又は本流)からの排除傾向
特例子会社制度に見られるインクルージョン(包摂)からの逆行



3. 超短時間雇用モデル

上記の問題を解決する方策として、東大先端研IDEAプロジェクトが産学官連携で開発してきた雇用モデル

- ①採用前に職務内容を明確に定義しておく
- ②定義された特定の職務で超短時間から働く
- ③職務遂行に本質的に必要なこと以外は求めない
- ④同じ職場で共に働く(一般労働者と)
- ⑤超短時間雇用を創出する地域システム
- ⑥積算型雇用率(注1)を独自に算出する

(注1)積算型雇用率…4H/週の人を8名雇用了場合4H×8名=32H=障害者雇用1名分と換算するもの(既存では30H/週×1名=30H)

4. 「雇用」から私たちが得られるもの

- (1)収入－労働によって分配された収入に基づき生活保障を得る
- (2)社会福祉・セーフティネット－年間を通じて週20時間以上働くことで、厚生年金に加入できる等
- (3)社会的所属－企業・組織へ所属し、社会的アイデンティティを得たり、自己実現の機会を得る

5. 超短時間雇用モデルと社会課題

(1)超短時間雇用モデルによるインクルーシブな働き方

障害だけに限らず、多様な社会的排除から起こる地域課題に対応できる

(2)個人の人生を縦割りにしないで横につなぐ仕組み

- ・公的扶助だけ、福祉資源だけ、特定企業での労働だけの縦割りにしない
- ・特定資源のみからの生活保障だけではなく、多面的な社会参加機会や収入源に個人を接続する地域の仕組みを作る
- ・障害者雇用では、中間事業者の存在により実現可能性があった
- ・…高齢等のその他の領域でどのように取り組むか

以上、熱のこもった近藤先生の具体的で分かり易いお話に参加者一同、深い感動と共感、そして何よりも希望を持つことが出来ました。限られた時間の中で、質問に答えきれない場面もありましたので改めて、このような機会を再度、「かもめ会」として検討してゆきたいと思えます。

なお、今回参加された方は、当事者、その家族、支援事業所の職員、ボランティアの皆様でした。

品川区では「品川区超短時間雇用促進窓口みつけ」(品川区障害者就労支援センター内)運営事業者「社会福祉法人げんき」が窓口となっています。短時間労働を希望される方を募集しておりますので、応募されたら如何でしょうか。

なお、「げんき」の連絡先はTEL03-5496-2525、FAX03-5496-2580です。(副会長 横田信子)

品川区超短時間雇用促進窓口みつけ チラシ